

「誰か」のことじゃない。 12月4～10日は人権週間 啓発活動を行いました。



●人権イメージキャラクターの
人KENまもる君と(左)
人KENあゆみちゃん(右)



メッセージの込められた
人権作品を展示



人権講演会を開催
アンちゃんと語ろう！



人KENまもる君が
街頭啓発にやってきた！



荻田中 藤原由奈さん・南原小今村花柚さん
人権作文の朗読ありがとうございました。

人権週間啓発活動を行いました

人権週間は、毎年12月4日～10日に人権尊重思想の普及高揚を呼びかけるものです。「『誰か』のことじゃない。」をスローガンに、全国各地で啓発イベントが行われ、荻田町でもこの期間、様々な活動に取り組みました。

11月26日～12月12日には、町立図書館で小中学生の人権作品や人権に関する図書を展示。力強いメッセージのこもったポスター等が並べられ、展示期間中には多くの方が鑑賞に訪れました。

12月4日には、人権擁護委員と役場職員がサンリブ荻田で街頭啓発を実施し、人権メッセージが記載されたノベルティグッズなどを配布。参加した委員は「このような活動を通して、町民の皆様と人権問題に対する関心を高めていきたい」と話していました。

12月15日は、中央公民館で「人権フェスティバル2024」を開催。小中学生の人権作文の朗読・表彰式と人権講演会を行いました。講演会では、北九州市立大学教授のアン・クレシーニさんが「アンちゃんと語ろう！～多様性社会～」と題して講演。参加者は「多様性について様々な視点、角度での話を聞き、多くの気づきを得ることができた。自身の無意識の差別について考えていきたい」と話していました。

白川小学校で「人権の花運動」の感謝式を行いました

育てたひまわりの種は メッセージとともに大空へ

白川小学校で11月7日、ひまわりを種から育てる「人権の花運動」に4月から取り組んできた3年生を中心に全校生徒が参加して感謝式が行われました。

この運動は、花を育てることを通じて命を大切にすることを育んでもらおうと、町が人権擁護委員と町内の小学校で毎年実施しているもので、この日は委員から児童たちにお礼の記念品が手渡されました。児童たちは感謝式の後、収穫したひまわりの種をメッセージと一緒に風船で大空へ飛ばしました。



力を合わせて地域の防災力を高めよう！

避難所運営訓練

開催

地域で考え、地域で行動する訓練

荻田町では、防災意識の高揚と地域防災力の向上を目的に、地震災害を想定した「図上訓練」と「避難所運営訓練」を、馬場小学校区で開催しました。

11月9日に三原文化会館で行われた図上訓練には、同校区の自主防災会の役員や防災士を中心に約30名が参加。避難所の運営方法や要支援者の支援方法など、避難に必要な基礎知識を学びながら、ハザードマップや馬場小学校の図面を実際に使って、避難者が安全に避難して快適な避難生活をするための手段や方法を考えました。

11月23日には、同校区の区民約130人が参加し、馬場小学校で「避難所運営訓練」を開催。防災行政無線での緊急地震速報を合図にシェイクアウト訓練を行い、その後、区民の皆さんが小学校へ避難してくると、自主防災会の役員と防災士が6つの班（総務・情報名簿・施設・食料物資・健康福祉・衛生）に分かれて、避難者の受付や避難所の安全点検などを実施。本番さながらの避難所運営を体験しました。

避難完了後には、応急救護体験や車いす体験、自衛隊による炊き出し訓練、日産自動車九州(株)による電気自動車からの電力供給体験、応急給水体験など、災害時に役立つ様々な体験を行い、区民の皆さんは地域の防災力の更なる向上に向けて汗を流しました。

地域と行政が連携した日々の訓練が大切

自然災害は100%防ぐことは不可能です。しかし、日々訓練を重ねることで被害を軽減させることは可能です。

私自身、東日本大震災のとき、被災地に応援に行きました。そこで思い知ったのは、行政の力だけでは災害を乗り越えることはできないということです。一番地域のことを知っている皆さまと行政が連携した災害対応を訓練で学んでいくことが大切です。

訓練に参加した
安成副町長

失敗から学び
災害発生時に活かす

講師のことば
地域安全協会代表理事
山本一さん

今回の訓練で各班の役割や動きなどを確認できたと思いますが、失敗やできなかったことも多かったと思います。今回の失敗から学び、実際に災害が発生した際に活かすことが大切です。

今後も各區で訓練を重ねることで、地域で助け合う意識や顔の見える関係を構築し、「安全・安心な町」を作っていただきたいと思います。



グループで図上訓練。
様々な意見を交わしました。



多くの方に
参加していただきました。



シェイクアウト訓練を実施！

